

河川管理者への確認事項に関連する これまでの説明資料等

本資料は、「河川管理者へ確認が必要な事項」について、過去の猪名川部会等に提出された資料のうち、関連部分を抜粋したものです。確認、および意見交換の参考として下さい。

<目次>

0．全体について	1
1．狭窄部（銀橋）の治水対策について	3
（1）目標（既往最大規模の降雨に対する浸水被害の解消）について	3
（2）狭窄部の浸水対策について（ダム以外の代替案、ソフト対策）	9
（3）狭窄部の開削について	15
2．余野川ダムの見直し案	18
（1）下流の治水に対する効果について	18
（2）利水の容量振り替えについて	20
3．利水について	24
4．下流部分の事業（環境、治水、利用を総合的に）	25

0. 全体について

○説明資料（第2稿）の「はじめに」には「実施」と「検討」「見直し」の違いについて記述されているが、「精査確認」「調査検討」についても「検討」に含まれると解釈して良いのか。また、「実施段階」とは検討の成果を元に河川管理者として「実施」「継続検討」「実施せず」を意思決定した段階であり、その結果について流域委員会、関係住民、関係地方自治体等の意見を聞いた上で、河川整備計画における位置づけを決定するものと捉えて良いか

はじめに

河川整備計画は、淀川水系流域委員会からの提言を受けて、河川管理者である近畿地方整備局が、河川及び流域の現状認識に基づき、基本的な考え方及び方針に沿って、今後20年から30年間に実施、或いは検討する具体的施策を取りまとめるものである。

具体的施策で「実施」と記述する施策は今後速やかに実施していく。「検討」、「見直し」と記述した施策は、今後検討・見直しを行い、実施段階になった時点で、流域委員会や関係住民、関係地方自治体等の意見を伺った上、決定する施策である。

また、「実施」とされたものについては、実施中・実施後の自然環境、社会環境に及ぼす影響についてモニタリングを行う。

河川整備計画にとりまとめる施策は、今後の社会状況の変化や、施策実施中並びに実施後のモニタリング等による施策の再評価に応じて、現状認識・基本的な考え方・方針の変更を含めて、流域委員会や関係住民、関係地方自治体等の意見を伺う等、所定の手続きを経て、随時、計画を改定し、追加・修正・中止等を行うものである。

資料：淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第2稿）

4. 河川整備の方針

4.1 計画策定、実施のあり方

4.1.1 対象範囲

本計画では、淀川水系の指定区間外区間(大臣管理区間)を計画対象とする。ただし、計画策定上必要となる指定区間・流域についても言及する。また、沿岸海域への影響も視野に入れる。

現行指定区間外区間一覧表等

4.1.2 対象期間

本計画の対象期間は、概ね20～30年間とする。

4.1.3 情報の共有と公開、住民との連携・協働、関係団体・自治体・他省庁との連携

河川管理者は河川に関する情報の積極的な収集と解りやすい情報を発信し、住民との意見交換が継続的に行えるような機会を設ける。

今後の河川整備計画の推進にあたっては、計画の検討段階から住民及び住民団体等地域に密着した組織との連携を積極的に行っていく。その際、双方はお互いの責任、役割分担等を常に確認する。また、合意形成を目指して、それらの組織を活かした公正な仕組みを検討する。

また、関係省庁、自治体等と連携が必要となる事項については、事前に周到的な調整を図るが、その中で明らかになった問題点や課題については、淀川水系流域委員会に報告するとともに、広く一般に公開して、住民にその連携施策の妥当性の判断材料を提供する。

4.2 河川環境

これまでの流域における社会活動、河川の整備や利用が淀川水系や我々自身の生活環境に与えてきた影響を真摯に受け止め、淀川水系における今後の河川整備は、水辺にワンドやたまりが数多く存在し、水位の変動によって冠水・攪乱される区域が広範囲に存在し、変化に富んだ地形と多様な生態系が形成されていた頃の河川環境を強く意識し、各河川に応じた河川の横断的・縦断的形狀の改善、残された環境の保全や失われた環境の再生、住民が安心して利用できる水質の改善等を目指す。

また、水、土砂、生物等多様な要素が複雑に依存し形成されている河川環境を保全・再生していくに際しては、人工的な改変によって川をかたち造るという発想ではなく、「『川が川をつくる』のを手伝う」という考え方を念頭に実施するとともに、常に慎重にモニタリングを行い、河川環境の反応や、河川と連続する沿岸海域への影響を把握、評価してフィードバックを行う。なお、モニタリングは河川管理者が独自に行うことに加えて、関係機関、住民及び住民団体との連携を進める。

資料：淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第2稿）

1. 狭窄部（銀橋）の治水対策について

(1) 目標（既往最大規模の降雨に対する浸水被害の解消）について

狭窄部上流多田地区では、近年においても度々浸水被害が発生しています。一方、周辺では宅地化が進んでおり、それらの地域の特性を考えると早急に浸水被害の軽減を図る必要があります。

本計画における狭窄部上流の浸水被害対策は、既往最大規模の洪水に対して 被害を軽減することを目標とします。

33

猪名川における代表4洪水のうち、狭窄部上流に集中した降雨で、かつ、氾濫シミュレーションにおいて被害額が最大となる昭和35年8月洪水を対象洪水とします。なお、氾濫シミュレーションは、現在の狭窄部上流多田地区を想定しています。

多田地区被害額

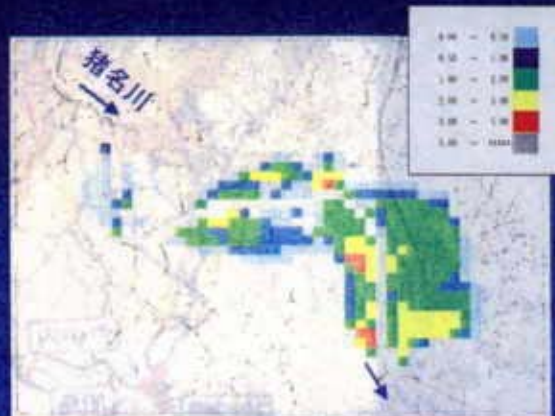
- ・昭和28年9月洪水 : 約10億円
- ・昭和35年8月洪水 : 約630億円
- ・昭和42年7月洪水 : 約10億円
- ・昭和58年9月洪水 : 約20億円

34

資料：第21回委員会(H15.5.16) 資料3-2 p.17

被害額が最大となる昭和35年8月洪水の氾濫想定図および諸元を以下に示します。

- ・被害額約630億円
- ・被害者数約4,300人
- ・床上浸水約1,140戸
- ・床下浸水約260戸



昭和35年8月洪水

35

なお、猪名川下流部の浸水被害の軽減を図る対象洪水は、流域に均等に降った降雨である昭和28年9月洪水とします。

36

資料：第13回猪名川部会(H14.8.20) 資料4-1 p.18

雨倍率と雨量確率評価の関係について

H13. 5. 23（水）に開催された第1回猪名川部会における池淵委員からの質問に対する回答です。

検討条件

◆対象洪水

S28. 9、S35. 8、S42. 7、S58. 9の4洪水を対象としました。

◆対象雨量

日雨量で確率を評価しました。

◆確率雨量

淀川水系工事実施基本計画（現行計画）で算定された各地点の確率日雨量を使用しました。

*確率雨量はM34～S44までの69年間の年最大値を標本とした統計処理（ゲンベル分布）により算定された値です。

検討結果

◆実績降雨の評価

実績降雨の日雨量の確率評価結果を下表に整理します。

実績降雨の確率評価結果

地点名	各洪水の確率評価			
	S28. 9	S35. 8	S42. 7	S58. 9
小戸	1/7	1/4054	1/18	1/5
戸の内	1/7	1/1847	1/31	1/5
神崎橋	1/6	1/355	1/46	1/7
加島	1/5	1/12	1/61	1/17

◆雨倍率と日雨量確率評価の関係

各地点の雨倍率と日雨量確率評価の関係を図-1および表-1に示します。
各洪水の雨倍率と日雨量確率評価の関係を図-2、3に示します。

※図-1, 2は対数グラフ

表1 雨倍率と日雨量確率評価の関係

小戸地点								
倍率	S28.9		S35.8		S42.7		S58.9	
	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年
0.3	44.5	1	112.4	3	54.6	1	40.8	1
0.4	59.3	1	149.8	8	72.8	1	54.4	1
0.5	74.2	1	187.3	21	91.0	2	68.0	1
0.6	89.0	2	224.8	60	109.2	3	81.6	2
0.7	103.8	3	262.2	172	127.4	4	95.2	2
0.8	118.6	4	299.7	493	145.6	7	108.8	3
0.9	133.5	5	337.1	1413	163.8	11	122.4	4
1.0	148.3	7	374.6	4054	182.0	18	136.0	5
1.1	163.1	11	412.1	11628	200.2	30	149.6	8
1.2	178.0	17	449.5	33356	218.4	51	163.2	11
1.3	192.8	25	487.0	95687	236.6	84	176.8	16
1.4	207.6	37	524.4	274492	254.8	140	190.4	23
1.5	222.5	57	561.9	787423	273.0	233	204.0	34
1.6	237.3	66	599.4	2258850	291.2	389	217.6	45
1.7	252.1	130	636.8	6479877	309.4	648	231.2	72
1.8	266.9	197	674.3	18588576	327.6	1081	244.8	106
1.9	281.8	298	711.7	53324341	345.8	1803	258.4	155
2.0	296.6	452	749.2	152969510	364.0	3009	272.0	227
2.1	311.4	686	786.7	438817826	382.2	5020	285.6	332
2.2	326.3	1041	824.1	1258819967	400.4	8376	299.2	488
2.3	341.1	1580	861.6	3611130414	418.6	13977	312.8	713
2.4	355.9	2397	899.0	10359103729	436.8	23322	326.4	1045
2.5	370.8	3638	936.5	29716726564	455.0	38916	340.0	1532
2.6	385.6	5521	974.0	85247011687	473.2	64937	353.6	2246

戸の内地点								
倍率	S28.9		S35.8		S42.7		S58.9	
	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年
0.3	41.9	1	100.3	2	56.3	1	39.3	1
0.4	55.8	1	133.8	6	77.7	2	52.4	1
0.5	69.8	1	167.2	14	97.1	2	65.6	1
0.6	83.7	2	200.6	37	116.5	4	78.7	2
0.7	97.7	2	234.1	97	135.9	6	91.8	2
0.8	111.6	3	267.5	259	155.4	10	104.9	3
0.9	125.6	5	301.0	692	174.8	17	118.0	4
1.0	139.5	7	334.4	1847	194.2	31	131.1	5
1.1	153.5	10	367.8	4932	213.6	54	144.2	7
1.2	167.4	14	401.3	13170	233.0	95	157.3	11
1.3	181.4	21	434.7	35173	252.5	167	170.4	15
1.4	195.3	32	468.2	93936	271.9	295	183.5	22
1.5	209.3	47	501.6	250876	291.3	521	196.7	33
1.6	223.2	71	535.0	670017	310.7	921	209.8	48
1.7	237.2	107	568.5	1789422	330.1	1630	222.9	70
1.8	251.1	160	601.9	4779030	349.6	2883	236.0	103
1.9	265.1	241	635.4	12763407	369.0	5100	249.1	151
2.0	279.0	363	668.8	34087374	388.4	9022	262.2	222
2.1	293.0	547	702.2	91037532	407.8	15900	275.3	326
2.2	306.9	824	735.7	243134965	427.2	28235	288.4	479
2.3	320.9	1241	769.1	649343294	446.7	49950	301.5	704
2.4	334.8	1869	802.6	1734208073	466.1	88369	314.6	1034
2.5	348.8	2815	836.0	4631569905	485.5	156335	327.8	1519
2.6	362.7	4241	869.4	12369569987	504.9	276577	340.9	2233

資料：第6回猪名川部会(11.12.18)資料2 p.60

表1 雨倍率と日雨量確率評価の関係

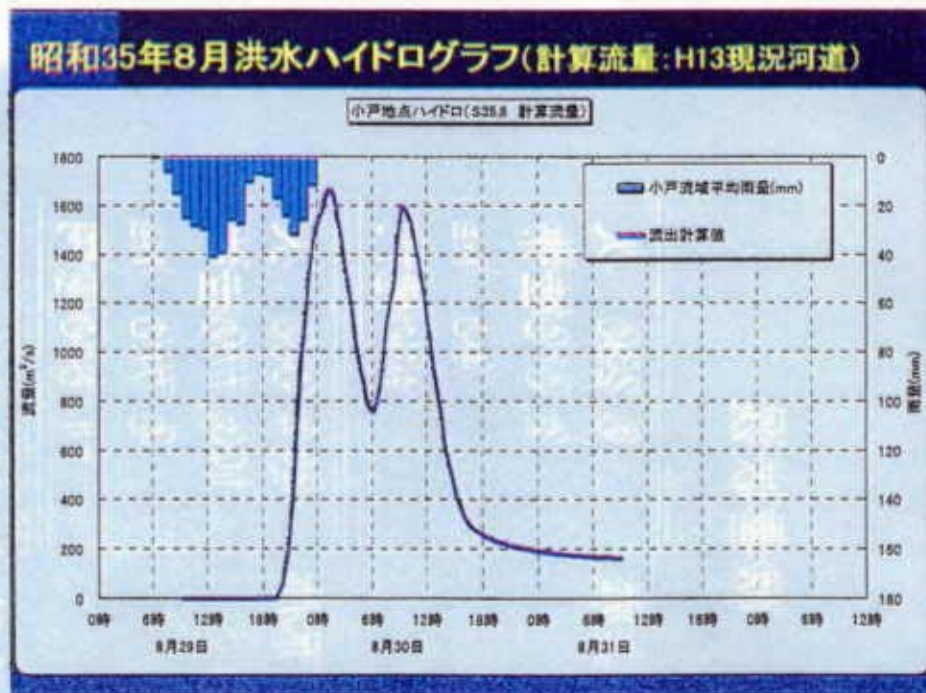
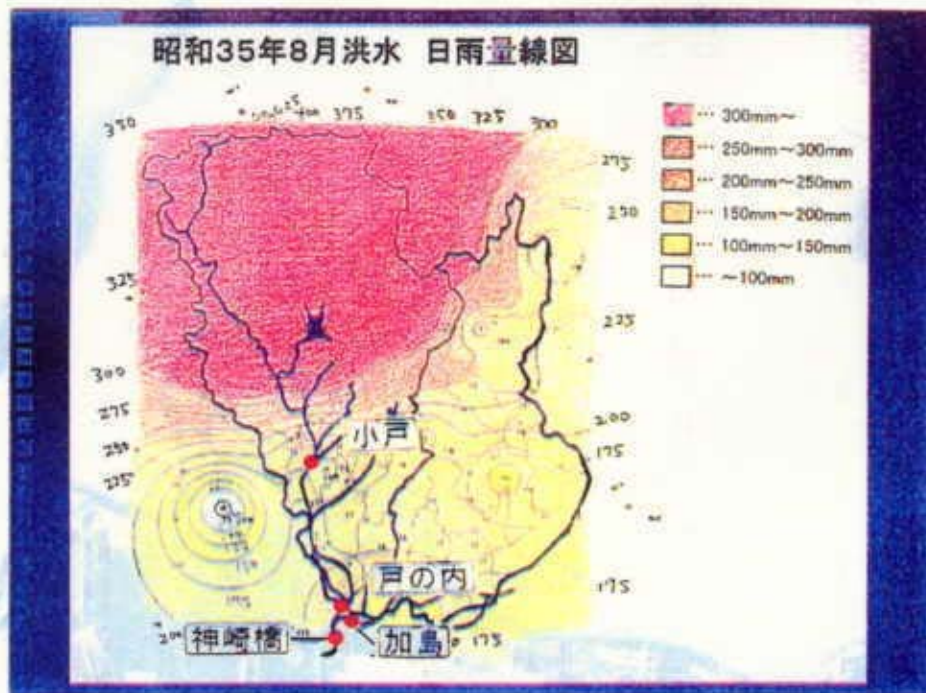
神崎橋地点

倍率	S28.9		S35.8		S42.7		S58.9	
	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年
0.3	41.2	1	81.6	2	61.3	1	41.9	1
0.4	54.9	1	108.8	3	81.8	2	55.8	1
0.5	68.6	1	136.1	6	102.2	3	69.8	1
0.6	82.3	2	163.3	14	122.6	4	83.8	2
0.7	96.0	2	190.5	30	143.1	8	97.7	2
0.8	109.8	3	217.7	69	163.5	14	111.7	3
0.9	123.5	4	244.9	156	184.0	25	125.6	5
1.0	137.2	6	272.1	355	204.4	46	139.6	7
1.1	150.9	10	299.3	808	224.8	85	153.6	10
1.2	164.6	14	326.5	1839	245.3	158	167.5	15
1.3	178.4	21	353.7	4189	265.7	293	181.5	23
1.4	192.1	32	380.9	9540	286.2	543	195.4	35
1.5	205.8	48	408.2	21731	306.6	1007	209.4	54
1.6	219.5	73	435.4	49500	327.0	1868	223.4	82
1.7	233.2	110	462.6	112755	347.5	3467	237.3	124
1.8	247.0	166	489.8	256844	367.9	6434	251.3	189
1.9	260.7	251	517.0	585060	388.4	11941	265.2	288
2.0	274.4	380	544.2	1332700	408.8	22163	279.2	440
2.1	288.1	576	571.4	3035739	429.2	41133	293.2	671
2.2	301.8	872	598.6	6915069	449.7	76343	307.1	1023
2.3	315.6	1320	625.8	15751743	470.1	141691	321.1	1560
2.4	329.3	1999	653.0	35880689	490.6	262977	335.0	2380
2.5	343.0	3026	680.3	81732151	511.0	488083	349.0	3630
2.6	356.7	4585	707.5	186176599	531.4	905677	363.0	5538

加島地点

倍率	S28.9		S35.8		S42.7		S58.9	
	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年	日雨量	確率年
0.3	40.1	1	49.1	1	66.7	1	52.8	1
0.4	53.4	1	65.5	1	88.9	2	70.4	1
0.5	66.8	1	81.9	2	111.1	3	88.1	2
0.6	80.1	2	98.2	2	133.3	5	105.7	3
0.7	93.5	2	114.6	3	155.5	10	123.3	4
0.8	106.8	3	131.0	5	177.8	18	140.9	7
0.9	120.2	4	147.3	8	200.0	33	158.5	11
1.0	133.5	5	163.7	12	222.2	61	176.1	17
1.1	146.9	8	180.1	19	244.4	115	193.7	28
1.2	160.2	11	196.4	30	266.6	216	211.3	45
1.3	173.6	16	212.8	47	288.9	405	228.9	74
1.4	186.9	23	229.2	75	311.1	760	246.5	122
1.5	200.3	33	245.6	119	333.3	1427	264.2	201
1.6	213.6	48	261.9	189	355.5	2680	281.8	331
1.7	227.0	70	278.3	300	377.7	5035	299.4	545
1.8	240.3	102	294.7	477	400.0	9458	317.0	898
1.9	253.7	149	311.0	759	422.2	17767	334.6	1480
2.0	267.0	218	327.4	1207	444.4	33376	352.2	2439
2.1	280.4	318	343.8	1921	466.6	62698	369.8	4020
2.2	293.7	464	360.1	3056	488.8	117783	387.4	6626
2.3	307.1	678	376.5	4882	511.1	221265	405.0	10921
2.4	320.4	990	392.9	7736	533.3	415663	422.6	18000
2.5	333.8	1445	409.3	12310	555.5	780856	440.3	29668
2.6	347.1	2111	425.6	19588	577.7	1466899	457.9	48899

資料：第6回猪名川部会(11.13.12.18)資料2 p.61



資料：第21回委員会(H15.5.16) 資料3-2 p.18

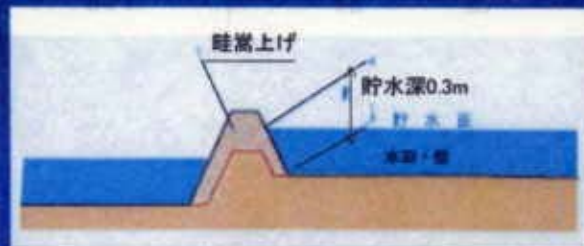
資料1 水害発生状況
 (新庄気象観測所(1H))

3.1 現在の施設を活用する方法

○田畑の貯留効果

◇概要

猪名川上流部で利用されている支川沿川における水田の畦を嵩上げすることで貯留効果を期待する方法です。



59

代表的な支川で、多田地区に効果が期待できる箇所を選定しました。



資料：第21回委員会 (H15. 5. 16) 資料3-2 p. 30